

第1回大阪府職場・一般吹奏楽フェスティバル

●6月21日(日) / フェスティバルホール(大阪)

文=岩佐拓 同フェスティバル実行副委員長

写真=大阪フォトサービス

「これ、ほんまにオール大阪やんか」「いやいや、出れへんかったところもあるから……。さまざまなお方から一番言われた言葉です。13団体が出演した第1回大阪府職場・一般吹奏楽フェスティバルは去る6月21日(日)にフェスティバルホールにて開催されました。

大きなフェスティバルホールを埋め尽くす観客から割れんばかりの拍手を受け満面の笑顔を見せる演奏者がステージにいる……。そんな時間が5時間にわ

たって続いたこのイベントのきっかけは、フェスティバルホールがリニューアルオープンした際「みんなおもろいこと、やらへんか?」といつ一言から話がした。最初に企画に乗った4団体が「この4団体だけでも開催します」と通称「血判状」を取り、そこから倍増の8団体で再度血判状を取り、さらに倍増を検討した結果、13団体が出演することになりました。

その後、各団体代表者で構成される実行委員会でさまざまな企画準備を行なうことになりましたが、これだけ多数の団体による合演演奏会の経験はない

に等しいうえに、フェスティバルホールの使用も初めてのため、まさに暗中模索の連続でした。「リハ15分しかないので?」「セッティング表、書いてもらわな、転換効率を考えた出発順が決められへんわ」「チケット管理はきちんとさせな、当日えりことになりませ」。毎回数時間によぶ実行委員会の会議は真剣ながらも笑いを交えながらこなし、さらに梅田の立ち飲み屋でしつかり「残業」することで、信頼関係は築

S P A C E



各団体から参加した191名によるグランド・フィナーレの演奏。指揮は丸谷明夫先生

大阪シティオーケストラ(指揮:木下祐介、赤塚弘一)
《ダンス・セレブレーション》(建部知弘)、《チームズ・ジャーニー》(ヘス)
河内長野吹奏楽団ブルーウインズ(指揮:土橋崇之)
《アラムの追跡》(ホルジンガー)、《吹奏楽のための風景詩「陽が昇るとき」》(高昌師)
創価学会関西吹奏楽団(指揮:伊勢敏之)
《サモン・ザ・ドラゴン》ファンファーレとプレリュード(グレイアム)、バレエ組曲《三角帽子》(アリヤ/保科洋編)、《花燃ゆ》メインテーマ(川井憲次/福田洋介編)
キャッスルウインドアンサンブル(指揮:生島みのる)
創立5周年委嘱作品《紫黒城のテーマ》(福田洋介)、交響詩《モンタニャールの詩》(ヴァンデル=ロースト)、《かっぽれファンク》(宇崎竜童/杉浦邦弘編)
まちかね山吹奏楽団(指揮:田中智章)
《ウインドオーケストラのためのマインドスケープ》(高昌師)、《石の刻印~宇宙のファンタジー~君の瞳に恋してる》(フォスターほか/郷間幹男編)
箕面市青少年吹奏楽団(指揮:竹本裕一)
《スパークリングアイズ・プレリュード》(福田洋介)、《翡翠》(マッキー)
堺市音楽団(指揮:たなかひろし)
第20回定期演奏会記念委嘱作品《山の動く日来たる~与謝野晶子の詩による音詩》(尾崎一成)
大阪市民吹奏楽団(指揮:大田悟史)
《大阪俗謡による幻想曲》(大栗裕)
桃山ウインドオーケストラ(指揮:中田慎哉)
《翼とともに》(ジル)、《アフリカ:儀式と歌、宗教的典礼》(R.W.スマス)
パナソニック エコソリューションズ吹奏楽団(指揮:山崎友靖)
《舞踏会の美女》(アンダーソン)、《ウエスト・サイド・ストーリー》よりシンフォニック・ダンス(バーンスタイン/ラヴェンダー編)
阪急百貨店吹奏楽団(指揮:飯守伸二)
《朝のステップ》(小川原久雄)、《ブロックH》(杉本幸一)、《船渡御絵巻》(杉浦邦弘)
蒲生ディストリクトバンド(指揮:押部直克)
《祝典序曲》(ショスタコヴィチ/ハンスバーガー編)、《ミュージカル『レ・ミゼラブル』》(シェーンベルク/森田一浩編)
三木ウインドフィルハーモニー(指揮:池田正宏・植松栄司)
《アッフェローチェ》(高昌師)、《シンフォニエッタ第2番「祈りの鐘」》(福島弘和)

<グランド・フィナーレ>(指揮:丸谷明夫)

《星条旗よ永遠なれ》(スーザ)、《マイ・ウェイ》(ランソワ/岩井直溥編)

な曲はもちろんのこと、ポップスありだ

ンスあり、意表をついてバルコニー・ボッ

クス席でのオフステージ演奏あり。大阪

らしく大阪俗謡による幻想曲を全曲演

唱する楽団もあれば、楽団の地元の作曲

者がその地域にちなんで書いた曲を取り上げる団体もあり、さらには職場バンド

が、(その職場)の10時閉店の音楽を演奏し始めるも、肝心の指揮者が遅刻して登場するなど、各楽団のよさがじみ出る演奏が続きました。

そんな13団体の最後に登場したのは丸谷明夫先生率いる総勢191名のグラ

ンド・フィナーレ。最初に演奏した《星

条旗よ永遠なれ》のピッコロ・ソロは、

グランド・フィナーレに参加していない各団体のピッコロ奏者も加わり、ステージ前方にすらりと23名が並んで演奏する圧倒的な演奏を披露しました。続いて

演奏した岩井直溥先生の名アレンジ《マイ・ウェイ》は191名の演奏とは思えないもので、お祭り騒ぎではなく繊細かつ柔らかいサウンドが、憧れのフェスティバルホールでの演奏を名残惜しそむかのように、切なくも温かく響きわたりま

る。そして、よいよ当日。朝8時前実行委員会集合を皮切りに、順次出演団体が集合し、ステージ上では10時から15分単位で合同ステージと各団体のリハーサルが開場直前まで続きます。14時に開場すると、2700席のホールはあつという間に埋まり、15時の開演時にはほぼ満席でスタートとなりました。

持ち時間15分の各団体のステージは、団体の特長が發揮されるシンフォニック

演奏が、そのステージの上で出演者は持

ておたがいを認めあうことができ、切磋琢磨しあえる「ライバル」になれると確信しています。

同時に、大阪に魅力的な楽団が数多くあることをお客様に伝える機会にもなりました。各楽団の演奏会を足を運んでくださる方々が増えるだけでなく、吹奏楽を頑張っている中・高校生が「大人になつても吹奏楽を続けたい」と思つきかけとなつてほしい……。そんな思いを胸に、今回出演できなかつた他の楽団を支えながら今後も続けていきたいと思います。

2900名を超えるお客様にお越し

いたいた今回のフェスティバル。無料でさまざまな大人の吹奏楽団の演奏を一度に楽しんでいる笑顔があふれた観衆を前に、憧れのステージの上で出演者は持

てる力を發揮しました。

このフェスティバルの準備・本番を通じて、各楽団および代表者のごだわりやよさに触ることができました。その結果、決して表面上ではなく本音ベースでおたがいを認めあうことができ、切磋琢磨しあえる「ライバル」になれると確信しています。

した。

■フェスティバルから得たもの

■樂しく、真剣に準備する

その後、各団体代表者で構成される実行委員会でさまざまな企画準備を行なうことになりましたが、これだけ多数の団体による合

演演奏会の経験はない

に等しいうえに、フェスティバルホールの使

用も初めてのため、まさに暗中模索の連続でした。「リハ15分しかなかった」という

準備を行なうことになりましたが、これだけ多数の団体による合

■個性的豊かなステージの数々

そして、よいよ当日。朝8時前実行委員会集合を皮切りに、順次出演団体が集合し、ステージ上では10時から15分単位で合同ステージと各団体のリハーサルが開場直前まで続きます。14時に開場すると、2700席のホールはあつという間に埋まり、15時の開演時にはほぼ満席でスタートとなりました。

持ち時間15分の各団体のステージは、団体の特長が発揮されるシンフォニック

演奏が、そのステージの上で出演者は持ておたがいを認めあうことができ、切磋琢磨しあえる「ライバル」になれると確信しています。この結果、決して表面上ではなく本音ベースでおたがいを認めあうことができ、切磋琢磨しあえる「ライバル」になれると確信しています。

同時に、大阪に魅力的な楽団が数多くあることをお客様に伝える機会にもなりました。各楽団の演奏会を足を運んでくださる方々が増えるだけでなく、吹奏楽を頑張っている中・高校生が「大人になつても吹奏楽を続けたい」と思つきかけとなつてほしい……。そんな思いを胸に、今回出演できなかつた他の楽団を支えながら今後も続けていきたいと思います。